

実践校における取組の概要

実践校名：鳥取県立岩美高等学校

指導モデル：生命（いのち）の安全教育教材（高校）

1 指導モデルの概要

(1) 対象

第2学年

(2) 実施時期

令和4年9月～令和5年3月

(3) 概略

性犯罪や性暴力、性感染症等に向き合うかについて、主体的・対話的で深い学びや「ピア・エデュケーション」(※)等をとおして、生徒が主体的に考え、自分のことばで語り合うとともに、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」人権意識や、そのための適切な実践力を高める。

※ピア・エデュケーション…仲間教育。思春期の若者が抱える性の悩み等について、同年代の仲間（ピア）が相談役になって考えたり意見を交わしたりすることをおして解決を目指す等の取組。

(4) 目的

- ア 「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」人権感覚を育成する。
- イ 人権が尊重される社会づくりに貢献できる人材を育成する。

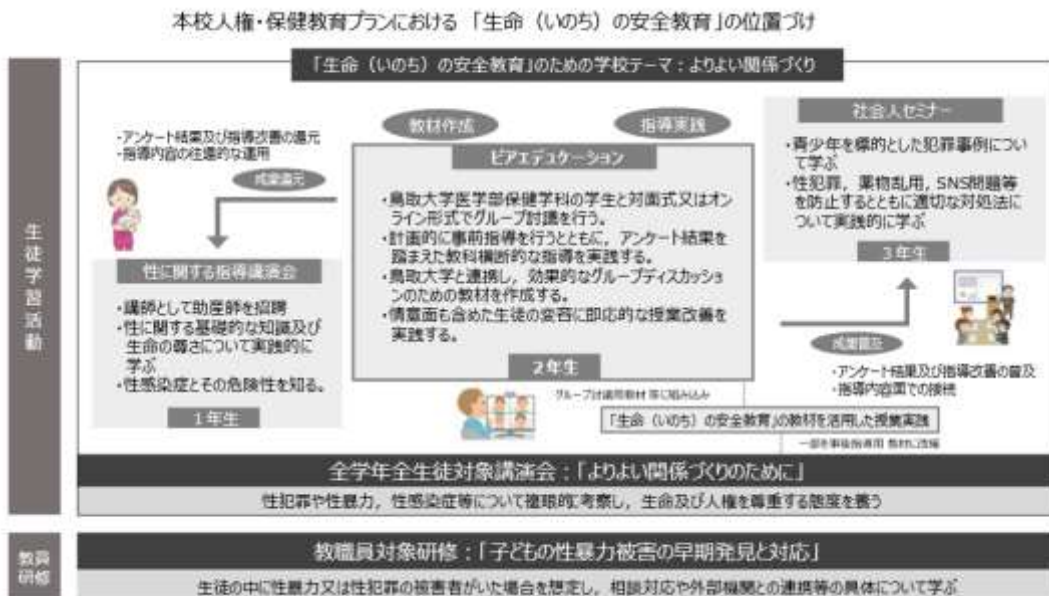
(5) 目標

- ア 性犯罪や性暴力を自分事としてとらえ、「性の問題は人権に直結する」との理解を深める。
- イ 大切な心と体を守るための「よりよい人間関係づくり」についての適切なあり方を実践する。

(6) 本校人権・保健教育プランにおける本指導モデルの位置づけ

次のイメージ図で示すとおり。

資料1

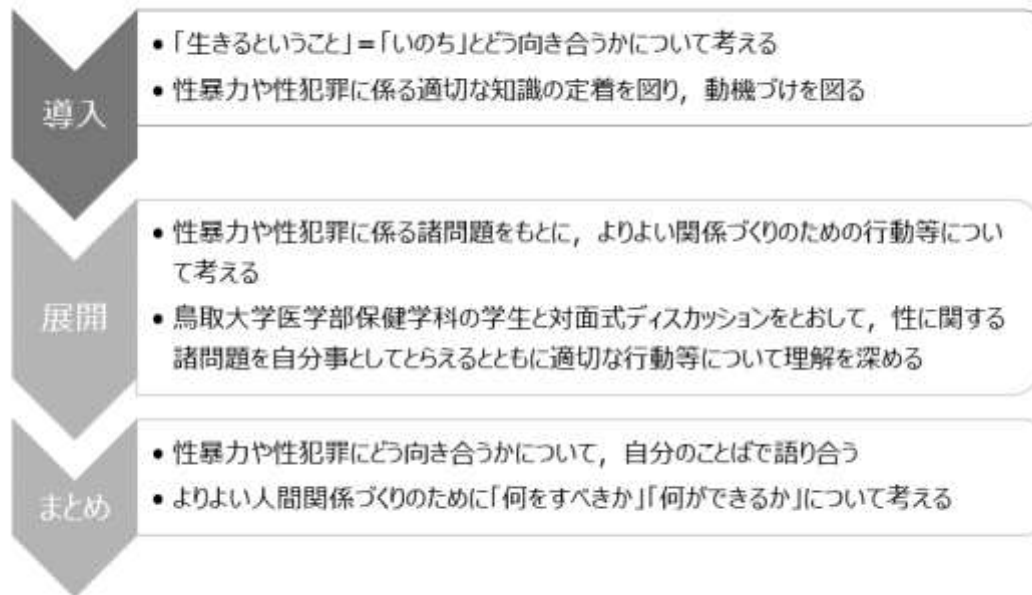


(7) 年間指導の流れ及び内容と狙い

ア 年間指導の流れ

資料2

性犯罪や性暴力を身近に感じられにくい生徒が一定数在籍していることを踏まえ、段階的に生徒の意識づけを図るとともに、問題を自分事としてとらえられるよう、次のような3つの段階を経て指導した。



イ 年間指導の内容と狙い

資料3

生徒の発達段階や情意面での変化変容に応じて、1(7)アに示した指導の流れを効果的なものにできるよう、事前・事後アンケートを実施したり、狙いや位置づけを明確にした上で全校生徒対象の講演会を活用したりして年間指導を行った。

時期	取組	対象						内容	担当者	狙い	教材活用
		1年生	2年生	3年生	教職員	保護者	県内教員				
導入	講演会	○	○	○	○			「生きるということ」=「いのち」とどう向き合うかについて考える	外部講師 (終末医療医)	・自傷行為やSNSによる誹謗中傷、いじめ等の様々な問題がある中、他者を思いやることや自分を大切にすることはどうにかかについて考える	×
	事前アンケート		○	○				性暴力・性犯罪並びに性(性教育)に係る生徒及び教職員の認識を把握する	(Google form)	・今後展開される「生命(いのち)の安全教育」に係り、生徒及び教職員の意識づけを図る	×
	導入指導			○				大切な心と体を守るために、よりよい人間関係について考える(ワークショップ形式)	教員	・1年次「性に関する講演会」の振り返りをもとにした意識づけ ・性暴力・性犯罪に係る事実の把握と理解(スライド、動画) ・ワークショップ形式によるケーススタディと活動結果の共有	○
10月	事前アンケート	○	○	○	○			性暴力・性犯罪並びに性(性教育)に係る生徒及び教職員の認識を把握する	(Google form)	・今後展開される「生命(いのち)の安全教育」に係り、生徒及び教職員の意識づけを図る	×
	事前打合せ				(○)			11月講演会・研修会の狙いや主旨を共有する	関係教職員	・本校の現状や本事業活用に係る思い等について講師と共有の上、より効果的な講演会及び研修会の内容等について検討する	×
展開	講演会	○	○	○	○	○		性暴力・性犯罪に係る諸問題をもとに、よりよい関係づくりのための行動等について考える ※人権問題講演会と兼ねて実施	外部講師 (専門家)	・デートDV等に係る事実及びその背景・要因等について適切に理解する ・よりよい関係づくりを妨げている言動等について理解を深め、自分のありようを振り返る ・適切な判断と行動が取れ、誰かのために動けることが重要であるとのマインドセットを喚起する	×
	研修会				○	○		子どもの性暴力被害の早期発見と対応、再発防止に向けた具体策を共有する(ワークショップ形式) ※県内教員等はオンラインで参加	外部講師 (専門家)	・性暴力の構造を適切に把握する ・グルーミングに関する適切な知見を入手する ・性暴力被害を受けた等、生徒からの話を聞く際の留意点や指導上配慮すべきこと等について具体的に把握する	×
	ピア・エデュケーション		○		○			性に関する諸問題について鳥取大学医学部保健学科の学生と対面式ディスカッションを行う	鳥取大学医学部保健学科の学生	・学生が作成した教材及び資料をもとに、学生のファシリテートで性に関する諸問題についてより深く考察する(ワークショップ形式) ・学生からの身近な問題等についての報告を踏まえ、性感染症や性暴力を自分事としてとらえる ・性の問題は人権に直結することを理解し、性の諸問題に向き合うことは人間らしく生きるために重要であるとの理解を深める	×
	事後アンケート		○		○			本事業をとおした生徒並びに教職員の変化・変容の度合いを確認する	(Google form)	・情意面も含め、本事業をとおした意識や態度の変化・変容を確認するアンケート回答をとおして個々の振り返りの場とする ・生徒の実態に即したフォローアップ指導内容を検討・立案する	×
			○		○					(Google form)	・情意面も含め、本事業をとおした意識や態度の変化・変容を確認するアンケート回答をとおして個々の振り返りの場とする
まとめ	フォローアップ指導		○		○			大切な心と体を守るために、よりよい人間関係のために「何をすべきか」「何ができるか」について考える(ワークショップ形式)	教員	・これまでの学びを踏まえ、よりよい人間関係づくりのために何が大切かについて自分のことばで表現しあう(ワークショップ形式) ・そのための具体的な行動について意見を出し合う ・性犯罪・性暴力にどう向き合うかについて自分のことばで語り合う	○

2 指導効果を高めるため学習体制づくり

本事業に係る指導をとおして生徒に生命及び人権を尊重する当事者意識を育成するとともに、生徒が問題を自分事として受け止め、他者とのよりよい関係づくりについて共同的に考えられるよう、「つなげる」「つくる」「しかける」をキーワードとする学習体制づくりにも取り組んだ。

「生命（いのち）の安全教育」の指導効果を高める学習体制づくり（イメージ）



(1) つなげる

ア (導入) 講演会 (9月)

- (ア) 目的 いのちに係る問題意識を育成するとともに内在化を図る。
- (イ) テーマ 「いのちと向き合う」とはどういうことかについて考える。

イ (展開) 講演会 (11月)

- (ア) 目的 性犯罪や性暴力に係る適切な理解を深め、自分のありようを考える。
- (イ) テーマ よりよい関係づくりのための適切な判断力と行動力を身につける。

ウ まとめ (フォローアップ指導) (3月)

- (ア) 目的 大切な心と体を守るための行動力を高める。
- (イ) テーマ 性犯罪や性暴力にどう向き合うかについて自分のことばで語り合う。

(2) つくる

ア 導入指導用教材の開発 (9月)

- (ア) 目的 デートDVに係る基礎知識を身につけ、よりよい関係をつくる力を身につける。
- (イ) テーマ 性被害の根底にある誤った認識や行動、性暴力が及ぼす影響を正しく理解する。

イ ピア・エデュケーション用教材の大学との共同開発 (11月)

- (ア) 目的 性感染症や性暴力を自分事としてとらえ、人間らしく生きるあり方を考える。
- (イ) テーマ 性に関する諸問題を語り合うことをとおして、よりよい交際について考察する。

(3) しかける

ア 事前・事後アンケートの実施

目的 よりよい関係づくりについて、自己と対話し、客観的に考える。

イ 「ペアワーク又はグループワーク⇔個別学習」を中軸とした学習形態

目的 自分の本当の気持ちや考えを自分のことばで語ることをとおして、問題を自分事として受け止めさせるとともに責任ある行動への自律を促す。

3 各段階の学習における概要

(1) 導入

ア 「いのち」をテーマにした講演会

資料4

- (ア) 期日 令和4年9月16日(金)
- (イ) 対象 全校生徒及び教職員
- (ウ) 演題 「いのちのそばで」
- (エ) 講師 野の花診療所 医師 徳永 進 氏
- (オ) 目的 ・「生きるということ」＝「いのち」とどう向き合うかについて考える。
・他者を思いやることや自分を大切にすることはどういうことかについて考える。
- (カ) 学習形態 ・講演会 集合形式
・HR教室 個別学習(振り返りレポート作成)

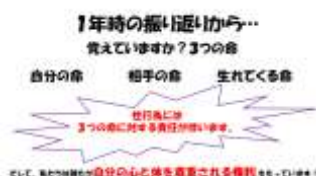


(生徒はフロアにてメモ取り)

イ 「生命(いのち)の安全教育」導入指導

資料5, 6, 7

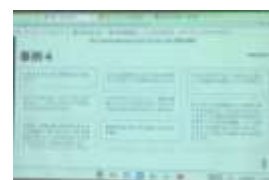
- (ア) 期日 令和4年9月22日(木)
- (イ) 対象 第2学年生徒 35名
- (ウ) テーマ 大切な心と体を守るために～よりよい人間関係について考えよう～
- (エ) 指導者 人権教育主任、養護助教諭(グループワーク補佐 学年主任、HR担任、副担任)
- (オ) 目的
 - a デートDVに係る基礎知識や性被害の根底にある誤った認識や行動、性暴力が及ぼす影響等を正しく理解する。
 - b よりよい人間関係(交際相手を含む)をつくるためのコミュニケーションスキルを身につける。
 - c 自分と交際相手にとって大切な心と体を守り、よりよい人間関係をつくろうとする態度を育てる。
- (カ) 学習形態
 - ・ワークショップ グループワーク(1グループ4名)
 - ・学習、意見共有 全体学習(Google for Education ツールを活用)
- (キ) 主な学習内容
 - a 第1学年時「性に関する指導講演会」の振り返り
 - b 性暴力・性犯罪の現状について正しく理解する
 - 「生命(いのち)の安全教育」教材に基づく実態理解と事例学習
 - 「生命(いのち)の安全教育」動画教材「性暴力とは」の視聴(前半)
 - c ワークショップ形式でケーススタディ
 - 大阪府茨木市発行「デートDV予防啓発冊子」(一部)を活用
 - d ケーススタディで出された意見の共有と課題意識の醸成



(独自開発教材 (一部))



(グループワーク)



(意見共有)

(2) 展開

ア 「よりよい関係づくり」のための講演会

資料8, 9

(ア) 期日 令和4年11月1日 (火)

(イ) 対象 全校生徒及び全教職員

(ウ) 演題 「よりよい関係づくりのために」

(エ) 講師 ウィメンズセンター大阪 代表 原田 薫 氏

(オ) 目的

- デートDVに係る事実及びその背景や要因等について適切に理解する。
- よりよい関係づくりを妨げている言動等について理解を深め、自分のあり様を振り返る。
- 適切な判断が取れ、誰かのために行動できることが重要であるという態度を育てる。

※より効果的な学習会とするため、事前に講師と打合せ (オンライン)

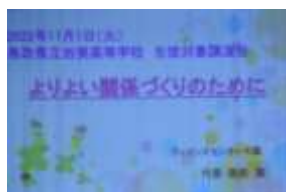
資料8

(カ) 学習形態 ・講演会 集合形式

・HR教室 個別学習 (振り返りレポート作成)

(キ) 主な学習内容

- 若者間デートDVの特徴及びデートDV的な態度の見分け方
- 性感染症や望まない妊娠の現状を踏まえた避妊の重要性
- リベンジポルノの実態
- 性の多様性に係る適切な理解 (「性は人権である」)
- レイプカルチャーの根深さに学ぶ「性的人権を守るための決まり」
- よりよい関係づくりのための11か条



(生徒とのインタラクション)



(「性とは心を持って生きること」)

イ ピア・エデュケーション

資料10

(ア) 期日 令和4年11月24日 (木)

(イ) 対象 第2学年生徒 35名

(ウ) テーマ 「よりよい交際」

(エ) 指導者 鳥取大学医学部保健学科 大島 麻美 助教

鳥取大学医学部保健学科看護学専攻 ピアサークル学生9名

(オ) 目的

- 共同開発した教材及び資料をもとに、生徒と学生が本音で語り合うことをとおして性に関する諸問題について深く考察する。
- 性の問題に係る学生からの問題提起や事例紹介等を踏まえ、性感染症や性暴力の問題

を自分事としてとらえる。

- c 性の問題は人権に直結することを理解し、性の諸問題に向き合うことは人間らしく生きるために重要であるとの理解を深める。

(カ) 学習形態 ・ワークショップ グループ別学習 (対面式)

→ 1グループにつきファシリテーターとして学生1～2名を配置

(キ) 主な学習内容

- a デートDVに係る基礎知識の確認
- b ワークショップ1：デートDVに係る課題意識の共有
- c LGBT等、他者と異なる価値観を受容することの重要性
- d ワークショップ2：ケーススタディ及び意見交換

〈テーマ〉

学生のロールプレイにより提示される「望まない妊娠」の当事者となった場合、自分ならどうどうするか。

- e 性感染症に係る適切な理解の共有
- f 性の問題が問いかける「主体的な自己決定」の重要性



(3)まとめ(フォローアップ指導)

資料 11, 12, 13

ア 期日 令和5年3月2日(木)

イ 対象 第2学年 35名

ウ テーマ 「大切な心と体を守るために…」

エ 指導者 人権教育主任、養護助教諭(グループワーク補佐 学年主任、HR担任、副担任)

オ 目的

(ア) これまでの学びを踏まえ、「よりよい人間関係づくりのために何が大切か」、「そのためにどのような具体的な行動が必要か」について自分のことばで語り合うことをとおして、自分と交際相手にとって大切な心と体を守り、よりよい人間関係をつくろうとする意欲と態度を育てる。

(イ) 性犯罪・性暴力にどう向き合うかについて自分のことばで語り合うことをとおして、傍観者や無関心でいることが性に関する被害者等をいかに生きづらくしているのかということに目を向けて、自分のあり方を見つめる態度を育てる。

カ 学習形態 ・ワークショップ グループワーク(1グループ4名)

・学習・意見共有 全体学習(Google for Education ツールを活用)

キ 主な学習内容

(ア) デートDV等の性暴力や性犯罪について1年間学んだことの確認と振り返り

(イ) デートDV等の事例にどう向き合うかについて本音やもどかしさ等を交換する

(ウ) 事前・事後アンケート結果から見えてきた同級生の変容等をもとに、確認したい事項について全体で共有するとともに自分なりの適切な実践力を支える考えを確認する

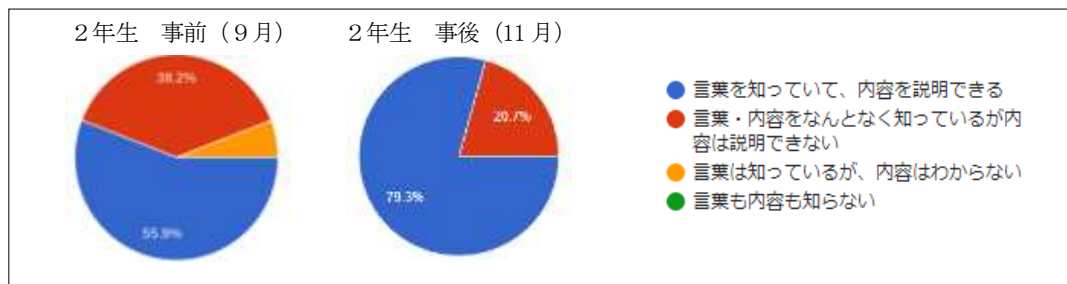
(エ) 大切な心と体を守り、よりよい人間関係をつくるために「何をすべきか」「何ができるか」について自分の考え等を交換する

4 子供たちの変容等

(1) 知識面の変容

デートDVに係る適切な知識を得て、「どういった行為が性暴力に相当するのか」について適切に理解する生徒が増加した。この増加割合については、本事業の主たる対象となっていた第2学年で顕著であった。

〈アンケート質問項目〉あなたはデートDVという言葉を知っていますか？



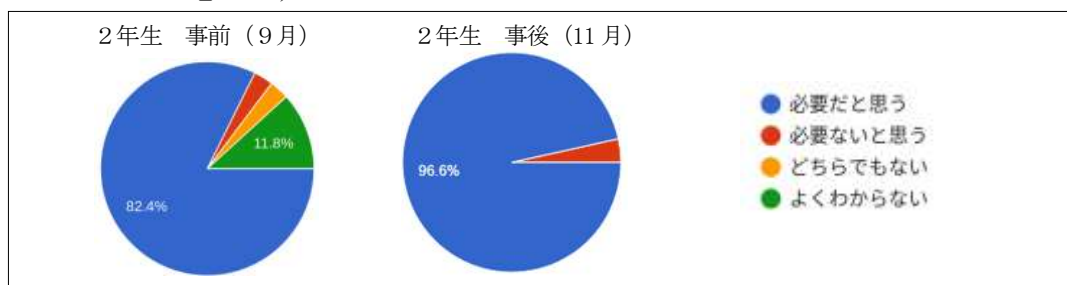
〈考察〉

- ・本事業のPPT教材並びに動画教材が、性犯罪や性暴力を身近に感じられにくい地方在住の生徒にとっても理解しやすいものになっていた。
- ・生徒が発達段階に応じて理解・習得できるよう、学習活動中に問いかけと確認を繰り返した。
- ・ピア・エデュケーション等の対話的な学習活動の中で、デートDVや性暴力に関連する語彙や課題が生徒にわかりやすい文脈や場面で用いられ指摘されたことにより、より具体的なイメージを伴って生徒に内在化した。

(2) 思考・判断面での変容

ア 「性の話を正しく教わることは必要である」と考える生徒が増加した。この増加割合については、本事業の主たる対象となっていた第2学年で顕著であった。

〈アンケート質問項目〉性の話（性犯罪・性暴力を含む）を正しく教わることは、必要だと思えますか？



〈考察〉

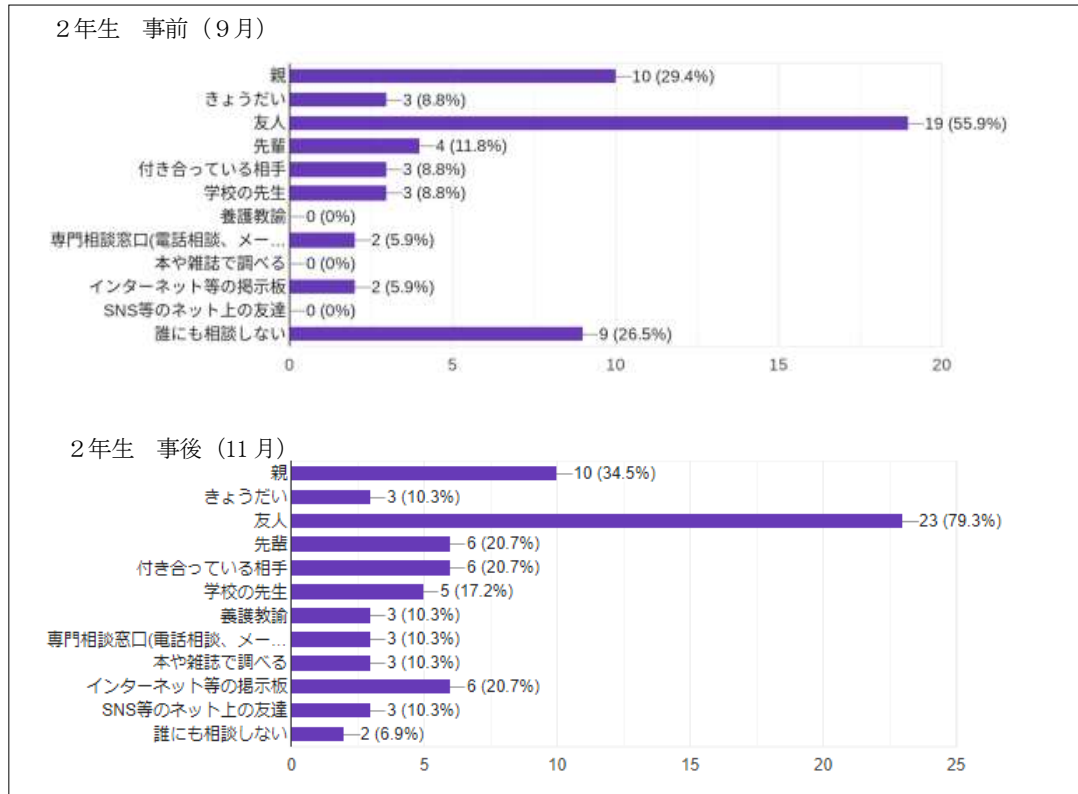
- ・実社会で発生している事実・事例紹介に係る専門家や学生の話に説得力があった。
- ・講演会やピア・エデュケーション等において、性暴力・性犯罪被害のむごさについて生徒が直視するシーンがたくさんあった。
- ・対話的・共同的な学習内容及び学習過程に、生徒の情意に訴えるものが多々あった。
- ・こうした学習をとおして、性暴力・性犯罪に毅然と向きあっていこうとする態度が醸成された。

イ 性についての悩みや不安を相談する相手について、当初は「誰にも相談しない」と回答した生徒比率が指導後に減少した。(26.5%→6.9%)。

また、相談相手として、友人を選ぶ生徒比率が増加したとともに(55.9%→79.3%)、学校教員を選ぶ生徒比率も増加した。

これらの増減割合については、本事業の主たる対象となっていた第2学年で顕著であった。

〈アンケート質問項目〉性についての不安や悩みを相談するとすれば誰にしますか？



〈考察〉

- ・性暴力や性犯罪、性感染症等、これまで学校教育であまり取り上げなかった問題に特化・焦点化した授業に通年で取り組んだことにより、「悩みや問題をひとりで抱え込まずともよい」との認識と安心感を生徒に醸成できた。
- ・自分(達)の本音や本心を語り合える授業形態を通年で採用したことをとおして、性暴力や性犯罪、性感染症といったセンシティブな事柄についても相談できる関係性を友人と紡ぐことができた。

(3) 情意面及び行動面の変容

本事業の中心的対象となった第2学年と他学年とでは、情意面での変容に大きな差があった。

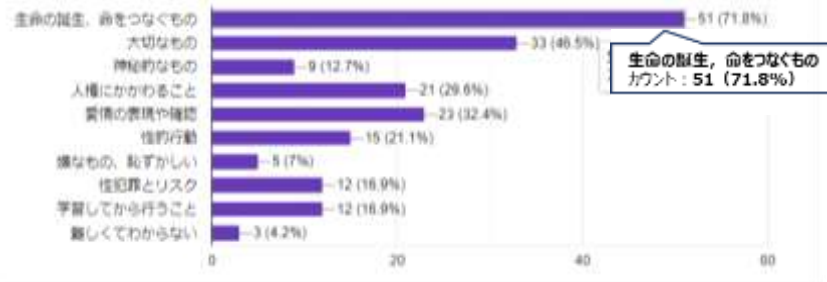
ア 第2学年では、性とは生命や人権に関わるものであり、必ずしも性行動に一元化されるものではないとの認識を強くするようになった生徒比率が高かった。

イ 同様に、第2学年では、性ということばで想起されるものとして性犯罪やリスクを挙げる生徒比率が他学年より高くなっており、社会的な問題や自己の責任についての意識が高くなったことがうかがわれた。

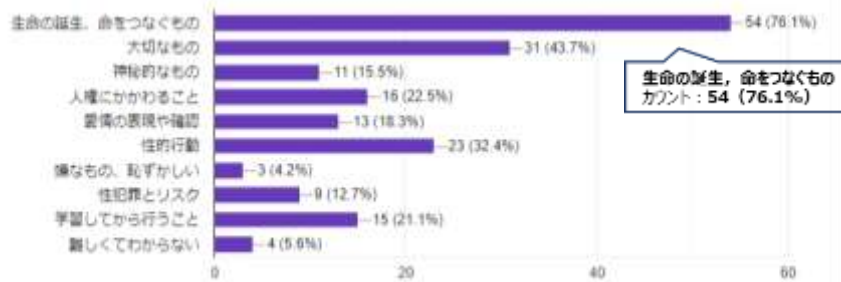
他方、性の問題は人権に関わることだと認識し、この認識を踏まえた行動が取れるようになったと自覚する生徒の数については、アンケート結果も含めて確認できるには至らなかった。

〈アンケート質問項目〉性という言葉のイメージを教えてください。

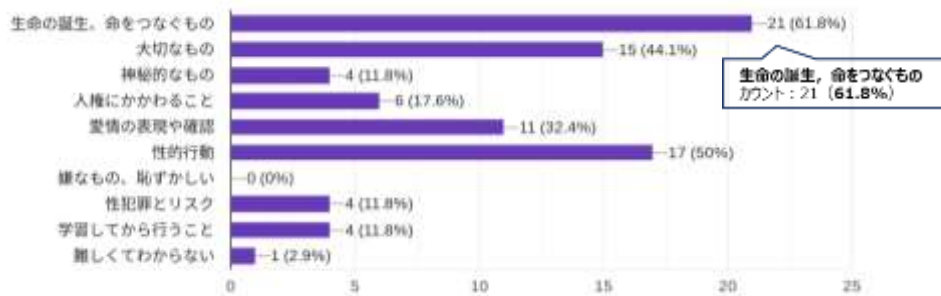
1年生 事前 (9月)



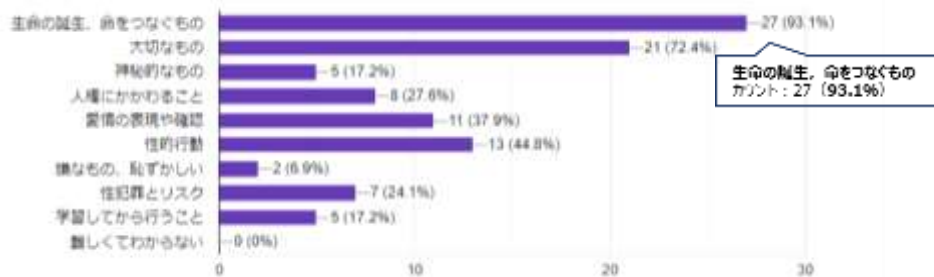
1年生 事後 (11月)



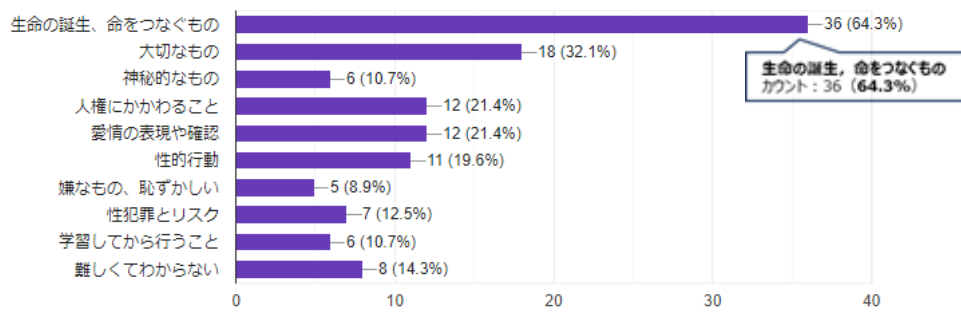
2年生 事前 (9月)



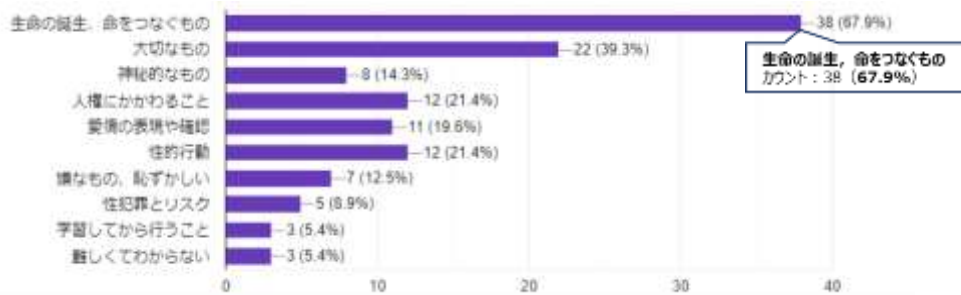
2年生 事後 (11月)



3年生 事前（9月）



3年生 事後（11月）



〈考察〉

- グループワークやワークショップ等を用いた主体的・対話的で共同的な学びは、個々の生徒が性犯罪や性暴力及びその根源的な課題を自分事としてとらえることに奏功する。
- また、性犯罪や性暴力に端を発する心と体の諸問題について適切に理解するとともに、本音を自分のことばで語り合うという活動は、性の問題は人権に直結するとの理解を深める上で効果的な指導である。
- さらに、こうした指導手法を一貫することで、「よりよい関係づくり」の上で大切にすべき事柄について生徒が段階的に理解を深め、自覚するようになる。
- 他方、変化変容した認識や思いにもとづく行動面の変容を自分のことばで相手に客観的に伝えられるようになるまでには、相応の時間がかかると思われる。

5 その他

(1)「生命（いのち）の安全教育教材」を活用した際の課題や改善点

資料6, 12

ア 課題

- (ア) 育成を目指す生徒像を踏まえ、授業で活用すべき教材を精査すること
- ・性犯罪や性暴力を身近に感じられにくい地方在住だからこそ、性に関する諸問題について生徒に、事実をもとに具体的に周知する必要がある。
 - ・他方、思春期真っただ中の高校生の性に関する興味関心をいたずらに刺激することを抑えることも求められた。
- (イ) 指導の目的や生徒の学習形態に合わせて教材をカスタマイズすること
- ・生徒が性犯罪や性暴力に係る知識を適切に得るだけでなく、得た知識をもとに「では自分はどうするか」について共同的に考える場を創出するために効果的な教材を作成する必要がある。
 - ・生徒の多様な学習スタイルを踏まえ、授業中に一度は、自分が得意とする学習方策を用いて学べる瞬間を作ることで生徒の積極性や主体性を喚起することが求められた。

イ 改善点

(ア)〈導入指導〉挿絵入りワークシートの挿入

- ・導入指導時に生徒が取り組むケーススタディ用の事例として、本事業教材補足資料（事例集）に代え、大阪府茨木市「デートDV予防啓発冊子」（一部）を活用。
- ・取り扱われる事例について、地方在住の生徒にも身近に感じられるようなものを用意することで、グループ別ワークショップの活性化を図った。

〈参考〉	事例1 携帯メモリーを勝手に渡す!?
	事例2 「死んでやる」って、え〜!?
	事例3 無理やり?ちょっとまって!
	事例4 「俺の女」?どういうこと?



(ワークシート (一部))

(イ)〈導入指導〉ワークショップをとおして生徒が考えたことを教材化

- ・ワークショップをとおして生徒が考えたことをデジタルテキスト化して照射し、問題を考察するための教材として即興的に活用。
- ・生徒は、ワークショップ後、自分の考えや本音をタブレット型端末に入力。
- ・メンチメーター(Mentimeter)を活用し、ケースごとにスライド化して全体で共有。
- ・授業者のファシリテートにより、導入指導時の生徒の思いや立ち位置等について確認するとともに、同じ問題にも多様な見方や考え方があることについて共有することをとおして各生徒の自己肯定感の醸成を図った。



(共有画面)

(ウ)〈まとめ (フォローアップ指導)〉生徒対象アンケート結果の教材化

- ・任意で抽出した生徒対象アンケート結果をグラフ化して教材化し、自分達の同級生の変化変容に係る実態を踏まえて主体的・共同的な考察を促す。
- ・性暴力等について本気で考えるからこそ戸惑う生徒の心情を共感的に理解した上で、本事業教材（一部）を重複活用して相談機関等の情報を再度提供し、問題を一人で抱え込んだりしないよう指導する。



(2) 指導力向上を目指した教員研修会の実施

資料13

全生徒対象講演会「よりよい関係づくりのために」の内容を踏まえ、性暴力・性犯罪の二次被害を防ぐための対応並びに指導スキル等に係る教員研修会を開催した。

その主な内容等については次のとおり。

ア 期日 令和4年11月1日(木)

イ 対象 全教職員及び希望する県内教員並びに鳥取県教育委員会人権教育課
※県内教員等はオンラインで参加

ウ 演題 「子どもの性暴力被害の早期発見と対応」

エ 講師 ウィメンズセンター大阪 代表 原田 薫 氏

オ 目的

(ア) 子どもの性暴力被害の実態を把握する。

(イ) 教職員等による児童生徒性暴力の防止等に関する法整備の状況を理解する。

(ウ) デートDV等を早期発見するための手立て及び対処法並びに留意点について適切に理解する。

カ 研修形態 ・研修 集合対面形式

・ワークショップ グループワーク

キ 主な研修内容

(ア) デートDVにおける性暴力の分類及び特徴

(イ) グルーミング(手なづけ)の実態並びに問題点

(ウ) 児童生徒性暴力の防止等に関する法整備の内容とポイント

(エ) 性暴力被害を受けたあとの子どもの変化

(オ) 性暴力を打ち明けられた側の心理(「沈黙の共謀」)

(カ) 性暴力被害を受けたあとの子どもの話を初期段階で聞く時の留意点

(キ) ワークショップ(事例に基づくグループ別活動)

(ク) 外部機関との連携の重要性



6 生徒の授業感想（抜粋）

〈導入〉

○令和4年9月16日（金）講演会「いのちのそばで」

「死を否定するのか、それを認めるのか」という言葉と「大事な物には答えがない、分からない、いい加減なことには答えがあって答えないといけない」という言葉が特に心に響きました。

死が何年もの闘病生活からの解放、一緒に病気と闘ってくれた家族の解放、否定するのが当たり前だと思っていた私に認めるという選択が生まれました。大事な物には正解という答えがない、自分でその答えを見つけることが大切なんだと気づかせてくださりありがとうございました。

私の将来の夢は、直接人の死や病気と関わる仕事ではありませんが、人に寄り添い支えられる人になりたいです。素敵なお話をありがとうございました。

（1年生女子）

○令和4年9月22日（木）「生命（いのち）の安全教育」導入指導

- ・DVは身体的なものだけではなく、精神的、性的、経済的なものもあるのだと分かった。
- ・殴る、蹴るだけが暴力ではないということを今日学ぶことができてよかったです。
- ・命の大切さを学んでいくのは、今の時代で本当に大切なものだと思います。
- ・いくら好きだからと言ってやっていいことと悪いことがある。自分の何気ない行動でも相手を傷つける可能性だってあるし、やっぱり相手の気持ちを考えることってどんな人に対しても大事だと思った。
- ・デートDVという言葉は初めて聞いたけれど、すごく人を傷つける行動だと思ったので、自分は絶対にやらないように、相手の気持ちをちゃんと考えることを忘れてはいけないと思った。
- ・暴力にはいろいろな種類があると知ったし、自分も今日みたいな場面になったらしっかり断れる意志を持っておこうと思いました。

（2年生）

〈展開〉

○令和4年11月1日（火）「生命（いのち）の安全教育」生徒対象講演会

70分という限られた時間でたくさんの知識を得ることができ、性について正しく学ぶことができました。一人の大人になるということは、責任が自分にあるということになると思うのですが、今日の話は将来にとっても役立つものになりました。私が初めて聞く言葉ばかりでしたが、全部丁寧に説明して下さり、学びを深めることができました。

その中で一番大事なことは、相手と「話ができるかどうか」が分岐点だと指摘されたことだと思います。話をし、お互いに理解しあえる関係であることや、all rights な状態を築ける人でありたいと感じました。

また「性」は「人権」であり、心を持って生きること、人間らしく生きることだと学び、「性」について正しく理解しました。友達などから相談を受けたとき、二次被害を起こさないように、性のことを正しく理解している一人として、相手のためになる発言をしていける人になろうと思います。

本日のお話をお聴きして、「強く美しい女性」へとまた一歩進んだと思います。これからも、楽しく健やかに人生を歩んでいきたいです。

（3年生女子）

暴力とはかたちとして見えるものだけではないから、言葉や行動に責任をもたなければいけないと思う。性行為をするときは、正しい知識をお互いが理解し、同意した上で行うべきだと思う。

私は今日の講演の中で学びや気づきがたくさんあり、そのうえで「人を好きになること」＝「その人を大切に思い、理解すること」だと感じました。

(1年生女子)

○令和4年11月24日(木)ピア・エデュケーション

今日、自分以外の人の考え方とかを聞いて勉強になりました。好きだからOKではなくて、相手のため、自分のためにもよく話し合うことが大切だなんて思いました。

今回のことをこの先に活かしていけるように覚えておこうと思いました。

(2年生)

みんなそれぞれの意見があったし、自分もちゃんと意見を言えたと思います。

でも正解は一つだけではないと思うし、それぞれあってもよいと思いました。その上で、相手のことをきちんと考えられる人になろうと思いました。

(2年生)

もし自分が妊娠した時に、自分ならどうするのかについて深く考えたことはなかったから、みんなと話を共有して、話し合いができてよかったです。

そういう状況になった場合、1人で抱え込まずに、親や信頼できる人に相談できるようにしたいです。

(2年生)

〈まとめ(フォローアップ指導)〉

○令和5年3月2日(木)

自由記述テーマ

今後、よりよい交際のための「よりよい関係を作る」ためにあなたはどんなことを考えますか。そして、このためにあなたはどのような行動をとる必要があると思いますか。

自分を大切にだけでなくパートナーを大切にすることや生まれてくる子どもを大切にすること。また、周りに流されて「私もいいだろう」と考えて行動してしまうのではなく、ダメだと思うことはダメと判断し、大切な友達や仲間を守るように素直に指摘することも大切。間違った行動一つで自分や相手の将来を台無しにしてしまうので自分の行動に責任をもって過ごしていきたい。

私は、よりよい関係をつくっていくために自分を好きになることが大切だと思います。なぜなら、自分のことすら好きになれない人が、人を想い、人を好きになれるはずがないと思うからです。

また、そうした中でいろんな人を知ること大切であると感じました。人と関われば関わるほど自分一人では考えられない考えを持てるからです。時には傷つくこともあるけど、逆にこんな人もいるんだなと自分の経験になると思っています。

生命（いのち）の安全教育を受けるまでは「いろいろな男の子を知って、若いうちにたくさん恋したり早く結婚したい。」と思っていたけど、この授業を受けて「そうではない。」ということを知りました。自分軸がしっかりしていないと、悪い男がどんな人なのかとかが分からなくなってしまうので、自分をしっかり持って、未来のことを真剣に考えられるようになりたいです。

お互い、なるべく隠しごとをしない。言いたいことはちゃんと言う。彼氏だけでなく、他の信頼できる人に相談する。もし私が誰かと付き合うことがあれば、今日まで勉強してきた内容を思い出せるといいです。1年間、何度も勉強してきたので大丈夫そうです。

自分の意見をしっかり相手に伝える。

自分はどうなりたいのか…自分の相手との将来を考える。

自分の意見が聞き入れてもらえなかった場合、その相手との交際をこの先も続けていっていいのかをもう一度よく考える。

相手と自分が将来どうなりたいのかが分からない状態で深い関係にはならない。

何かあったらまずは隠さずに相手に相談ができるようにすることが大事。そして、きちんと断れる人間になることも大事。

命が生まれることは本当に奇跡みたいなことです。だから悲しい思いをさせないよう、相手と一緒に悩んで考えられる関係性を創ることが大切だと思っています。